

報道各位

坂口安吾生誕祭実行委員会事務局
(新潟市文化政策課)**坂口安吾生誕祭119を開催します**

新潟市出身の作家・坂口安吾（1906－1955）が、令和7年10月20日に生誕119年を迎えることを記念し、下記のとおり本年も生誕祭を開催いたします。

今年は、政治学者の原武史氏をお招きし、「安吾の天皇論を語る」をテーマにご講演いただきます。

より多くの市民の皆さまにご来場いただけますよう、本イベントの周知にご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

概 要	
日 時	10月20日（月）14:00～16:30（開場 13:30）
会 場	新潟市民プラザ ホール （新潟市中央区西堀通6番町866番地NEXT21 6階）
参加費	無料
定 員	300名（先着順、要事前申込）
内 容	あいさつ「安吾没後70年に寄せて」…坂口 綱男（写真家・安吾長男） 講演会「安吾の天皇論を語る」…原 武 史（政治学者）
申 込	新潟市役所コールセンター（025-243-4894）へ電話で申込 受付期間：10月15日（水）21:00まで



坂口綱男氏



原武史氏

〈お問い合わせ〉

坂口安吾生誕祭実行委員会事務局（新潟市文化政策課）
担当 関谷・井上 電話 025-226-2631（直通）

1906-2025

坂口安吾

ANGO SAKAGUCHI

生誕祭

119

坂口安吾生誕祭119

講演会「安吾の天皇論を語る」

講師 原武史(明治学院大学名誉教授・政治学者)

日時／2025年10月20日(月)14:00～16:30(開場13:30)

講演冒頭、坂口綱男氏(写真家)による
ミニ講演「安吾没後70年に寄せて」を予定

会場／新潟市民プラザ ホール

(新潟市中央区西堀通6番町866番地 NEXT21ビル6F)

定員／300人、先着順(要事前申し込み)

参加費／無料

新潟市役所コールセンター(025-243-4894)へ電話で申込

申込 受付期間:9月24日(水)8:00～10月15日(水)21:00

参加を希望する全員の氏名、代表者の電話番号をお知らせください

お問い合わせ／坂口安吾生誕祭実行委員会事務局(新潟市文化政策課内)tel.025-226-2631

主催／坂口安吾生誕祭実行委員会

(安吾の会、松之山安吾の会、桐生安吾を語る会、阿賀浦コミュニティ協議会、東洋大OB会、
にいがた文化の記憶館、BSN新潟放送、新潟日报社、新潟市、新潟市芸術文化振興財団)

後援／新潟県 協力／新潟・市民映画館 シネ・ウインド デザイン／はれび

2025
10_{mon}
20

資料提供／新潟市 安吾 風の館

すでに第3次世界大戦に突入しているのではないか。こんな言葉が囁かれるほど世界は危うい方向に転がり始め、私たち日本人も、否応なく「国家」というものに向き合わざるを得ない時代を迎えています。太平洋戦争が終わった混迷の世に、坂口安吾は『墮落論』の中で「生きよ！ 墮ちよ！」と呼びかけ、新たな日本を構想する論考を数多く発表しました。その中に戦後日本を考えると、避けては通れない「天皇論」があります。安吾自身の歴史観に基づいた天皇論は、いまなお、その輝きを失ってはいません。

「昭和100年／戦後80年」の2025年は、坂口安吾の没後70年でもあります。新潟市の生んだ不世出の作家・坂口安吾を顕彰する恒例の「安吾生誕祭119」では、安吾のご長男坂口綱男氏(写真家)のミニ講演「安吾没後70年に寄せて」に続いて、「安吾の天皇論は「当時としては傑出したもの」と評価するゲスト講師・原武史氏(政治学者)が、安吾の「天皇論」を読み解き、安吾の歴史観や天皇論について語ります。

原武史氏からのメッセージ

1948(昭和23)年1月発行の『風報』に掲載された安吾の「天皇陛下にささぐる言葉」は、46年2月から始まった昭和天皇の戦後巡幸と、巡幸に対する各地の人々の反応を強烈に批判した文章として、いまなお輝きを失っていない。そこには天皇のいわゆる人間宣言や憲法改正によって戦前の天皇制と戦後の天皇制が変わったのではなく、むしろ根強くつながっているという透徹した歴史観が表明されている。その射程は今日にまで及んでいる。明治以来の天皇制の歴史を振り返りつつ、いま安吾の文章を読み返すことの意味について考えてみたい。



坂口 安吾

【さかぐち・あんど】

1906(明治39)年10月20日、新潟市西大畑町に生まれる。旧制新潟中学から東京・豊山中学に編入学、東洋大学印度哲学倫理学科卒業。46年「墮落論」を発表、「半年のうちに世相は変わった」というメッセージが廃虚に佇む人々に衝撃を与え、一躍脚光を浴びる。以後、太宰治らとともに無頼派の旗手として小説、評論、エッセイなど旺盛な創作活動を続ける。日本の伝統主義や権威の欺瞞性を批判する鋭い文明批評を展開し、戦後の文学や思想に大きな影響を与えた。55年2月17日、群馬県桐生市の自宅で脳出血のため48歳で死去。

主な作品に「風博士」「日本文化私観」「白痴」「桜の森の満開の下」「不連続殺人事件」「安吾巷談」「夜長姫と耳男」「安吾新日本地理」ほか。



原 武史

【はら・たけし】

1962年東京都生まれ。東京大学大学院博士課程中退。明治学院大学名誉教授。放送大学客員教授。日中文化交流協会理事。高千穂あまてらす鉄道総合研究所理事。

著書に『「民都」大阪対「帝都」東京』(サントリー学芸賞)、『大正天皇』(毎日出版文化賞)、『滝山コミュニケーション1974』(講談社ノンフィクション賞)、『昭和天皇』(司馬遼太郎賞)、『皇后考』、『歴史のダイアグラム』、『日本政治思想史』など。2024年日本政治法律学会現代政治学賞受賞。



坂口 綱男

【さかぐち・つなお】

1953年群馬県桐生市で坂口安吾の長男として生まれる。1978年からフリーのカメラマンとして広告写真や雑誌の写真を撮る。主な著書に『安吾のいる風景』、写真集『Le temps arrete』『安吾と三千代と四十の豚児と』ほか。

坂口安吾デジタルミュージアムのご紹介

「坂口安吾入門」や「作品検索」はもちろん、「安吾ヒストリ」や「研究文献目録」まで、様々な情報を発信中!初心者からマニアまで一日中楽しめるサイトです!皆様からのアクセスお待ちしております!



●予告! 2026年は坂口安吾生誕120年
企画展、国際シンポジウム、
パフォーマンスなど、
多彩なプログラムを鋭意準備中!